公立大学法人旭川市立大学
令和6年度の業務実績に関する評価書

【小項目別評価】

令和7年8月
旭川市公立大学法人評価委員会

年度計画小項目評価 【1　教育等に関する目標を達成するための措置】

＜中期目標　教育等に関する目標＞
⑴ 学生の受入れに関する目標
教育の特長や求める学生像について，本市をはじめとして広く周知することで，学ぶ意欲をもった学生の確保に努めるとともに，資格取得等の様々な目的をもった社会人や留学生等，多様な人材の受入れを推進する。

中期計画	令和6年度　年度計画	法人による自己点検・評価		評価委員会による評価	
		項目評価	評価判断理由・実施状況等	年度評価	指摘・意見等
学生の受入れに関する目標を達成するための措置					
＜学部・短期大学部・大学院共通＞	＜学部・短期大学部・大学院共通＞				
1)アドミッション・ポリシーを周知するため、本市地域をはじめ、北海道内外へ広く効果的な広報活動及び学生募集活動を実施する。 2)改正後のアドミッション・ポリシーを入学案内（パンフレット）及びホームページに掲載する。 3)アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施する。 4)学生募集の強化を目的に、洗練された完成度の高いホームページへのリニューアルへ向けプロジェクトチームを結成し、準備を始める。	1)アドミッション・ポリシーの周知のため、入学案内（パンフレット）や本学ホームページに掲載し広報活動を行う。	3	入学案内パンフレットや入学者選抜要項、本学ホームページに掲載し、受験生や進路指導担当教員等に周知を行った。 また、入試制度の変更（指定校推薦の導入）に伴うアドミッションポリシー一部改正に向けて準備を進めた。	3	
	2)アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施し、入試結果の分析・検証を行う。アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するため、前年度までの入学者選抜結果やオープンキャンパス参加者状況を分析し、入学者選抜方法の検討を行う。短大は昨年度に引き続き、入学生に対して入学動機等のアンケートを実施し、入試広報に係る情報を収集する。		大短共に、分析を行い入学者選抜方法についての検討を行った。短大に関しては新入生にアンケートを実施し、情報を収集。今年度から試験内容を変更した「総合型選抜」については、本選抜の意図に合った学生の獲得に繋がったことがアンケートの結果から知ることができた。		
	3)留学生や社会人を対象とした特別選抜を実施する。		留学生特別選抜を2月に実施し、社会人特別選抜を11月に実施した。		
【指標】 ・入学定員充足率 100%を確保 ・入学者に対する地域内比率：30%以上	【指標】 ・ 入学定員充足率：100% ・入学者に対する地域内比率：30%	3	大学の定員充足率は100%を確保（大学全体充足率：107%）。 短大は食物栄養学科が98%、幼児教育学科は63%であった（短大全体充足率：74.7%）。 大学はすべての学科で定員充足できた。短大は昨年よりも充足率は改善したが、100%には及ばず。 全国的に短大への進学者が減っている現状ではあるが、高校訪問や相談会、オープンキャンパス等で魅力を発信しつつ定員充足に向けて努めていく。 入学者に対する地域内比率に関しては、大学・短大すべての学科で30%以上となった。 〔大学〕 経済学部経営経済学科：101名 101%（地域内比率：39名 38.6%） 保健福祉学部コミュニティ福祉学科：52名 130%（地域内比率：21名　40.4%） 保健福祉学部保健看護学科：61名 102%（地域内比率：24名 39.3%） 〔短大〕 食物栄養学科：49名 98%（地域内比率：33名　67.3%） 幼児教育学科：63名 63%（地域内比率：51名　81.0%）	3	入試制度の変更や戦略的な入試広報などを着実に実施し、特に短期大学部・大学院において学生充足率の向上に努められたい。